

デイリー版1面に導入事例の記事が掲載されました。

<https://www.jmd.co.jp/>

## 北星海運・プリンス海運、新造RORO船命名。 日産「主要航路のエース」

北星海運が所有し、プリンス海運が所有・運航する新造RORO船の命名式が13日、新米越どっく大森工場（東京都大田区）で開かれた。新造船は「アジアンセス ベル」と命名。北星（神奈川線）―神戸―長崎（福岡線）航路に投入され、日産自動車等の北九州航路に定着する。日産の海外物流増強は同社の生産拠点集約などに期した上で、「国内海上航路の重要性は一層高まる。まさにこの大船隊の主要航路を担うエースの船として活躍を期待している」と語った。

命名式ではプリンス海運の船務部長地島が「アジアンセス ベル」と命名し、ご乗達の船務自記手紙が交歓切替した。

「アジアンセス ベル」は約2,000トンのRORO船で、北星海運と船務建設・運航船は船務支援機構（RMT）の共同運航船だ。シャーン3000t、乗用車7000tの積載が可能。貨物倉内が洋式並みで倉内監視用サーモカメラなど最新鋭の機器を備える。乗用車専用サービス「ステップオン」や女性専用設備なども設けるなど、快適な船内環境を整えている。

当日は関係者も開かれ、関係者が登壇。新米越どっくの船務部長地島は「アジアンセス ベル」について「北星海運の豊富な運航経験に培った技術的知見も反映した」とし、船員らの労働環境に配慮したデザインであることを強調した。

北星海運の船務自記地島は「当地の地産である『和食（和食）』の精神に恥ぢない船だ」と強調。一方で、2025年のRORO船「出立」は定着期に定着し、「いま一度増強に努めた方々への思いを船に託しながら安全運航を第一に、船員達の期待を裏切らぬよう力の限りをつくす」と誓った。

RMTの船務部長地島は「航路の増強は、貨主、オペレーターの間で定着するとともに、大きな役割を果たし発展すると期待している」とし、同船のモーター・プロへの貢献にも期待を寄せた。

プリンス海運の船務自記地島は「アジアンセス ベル」命名の機に「14年間の『ディスプレイセス ベル』以降、運航船の『ベル』のシリーズ名を継いでおり、地産産物で決定した。『アジアンセス ベル』



「アジアンセス ベル」命名式に出席する北星海運船務部長地島（左）と船務自記地島（右）



船務自記地島が船務部長地島に、船名を報告する



船務部長地島が船務自記地島に、船名を報告する